

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校

- 1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
- 2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
- 3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立

- (1) 生徒実態の把握（学力、生活、健康）
- (2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化
- (3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し
 - ア 生徒の実態やニーズを見据えた・募集人数の適正化
 - イ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化についての検討
 - ウ 単位修得のための環境整備

※ 運営委員会を毎週開催し、各種課題解決に向けて実動し、H27 年度までに現行課題の 75% を処理する。

※ 学力実態の把握に向け、学力診断テストの試行を行い、H27 年度には完全実施する。

※ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化について府教育委員会と協議を継続する。

2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成
 - ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開
- (2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善
 - ア 一人で取り組み、満足感の得られるレポートの作成及び添削指導
 - イ レポート作成に役立つスクーリングの展開
 - ウ 研究・公開スクーリングの実施
- (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入
 - ア 基礎学力不足の生徒に対する学習支援策の検討・確立
 - イ スクーリングに出席できない生徒等のサポート体制：ICT を活用した e-ラーニングによる教育システム（スタイル）の研究、試行、実施
 - ウ 進学希望者に対する学習支援策の検討・確立

(4) 教職員研修の充実

※ 生徒向け学校教育自己診断におけるレポート、スクーリングに関する肯定的評価を毎年 3% ずつ向上させ H27 年度には 90% をめざす。

※ 1 範囲をクリアした生徒の全教科平均の単位修得率を毎年 5% ずつ向上させ、H27 年度には 80% をめざす。

※ 研究・公開スクーリングの教科毎の開催について、H27 年度には実施率を 100% とする。

3 生徒支援と相談体制の強化・充実

- (1) 生徒及び保護者との面談・懇談や相談会の実施
- (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有
- (3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施
- (4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及び情報伝達環境の整備
- (5) 精神科医及び臨床心理士や S C 等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り

※ 生徒向け学校教育自己診断における「困った時に相談できる先生がいるか」の肯定的評価を H27 年度には 75% をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活はあなたにとって有意義なものになっていますか」の肯定的評価を H27 年度には 80% をめざす。

4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実

- (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施
- (2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実
- (3) 総合的な学習の時間の新たな目標設定と有効活用

※ 教職員向け学校教育自己診断における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう系統的な進路指導が行われている」の肯定的評価を H27 年度には 75% とする。

5 情報発信・広報活動の充実

- (1) 情報発信の充実
 - ア HP、携帯連絡メール（桃通メール）、桃谷通信の内容充実
 - イ インフォメーションディスプレイの活用
- (2) 広報活動の充実
 - ア 学校説明会の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]				学校協議会からの意見
診断結果の一部抜粋 * 表中の数字は、回答の%を示している。				第 1 回 平成 27 年 6 月 29 日（月）午後 6 時から午後 8 時まで <委員> HP 内動画とはどのような内容であるか。 ⇒プリントを動かしながら説明するような動画である。 <委員> NHK 高校講座の活用について ⇒学校に来ることができない生徒を対象に、今年度中にスクーリング代替を検討する。
【通信制の学習システムについて】				
項目	教員	生徒	保護者	
通信制の学習システムが理解できているか	58.8	96.1	82.5	
(昨年度集計)	64.6	96.8	79.3	
(増減)	-5.8	-0.7	+3.2	
* 教員へは生徒の、保護者へは生徒と保護者自身の理解度を問うている。				
* 生徒は、学習が進んでいない生徒の、その理由でシステムが理解できないからと答えた生徒の割合を引いたパーセンテージ。				

【学習について】

項目	教員	生徒	保護者
レポートは一人で完成できる内容となっているか	90.4	89.9	・・・
(昨年度集計)	100.0	91.5	・・・
(増減)	-9.6	-1.6	・・・

項目	教員	生徒	保護者
添削は学習の理解を深めるのに役立っているか	96.2	89.8	・・・
(昨年度集計)	89.8	86.3	・・・
(増減)	+6.4	+3.5	・・・

項目	教員	生徒	保護者
スクーリングは分かりやすく学習の助けになったか	92.3	89.8	・・・
(昨年度集計)	95.9	89.3	・・・
(増減)	-3.6	+0.5	・・・

【生徒の状況】

項目	教員	生徒	保護者
レポートの提出期限を守れない生徒が多い	70.0	・・・	・・・
(昨年度集計)	70.0	・・・	・・・
(増減)	±0	・・・	・・・

【組織体制について】

項目	教員	生徒	保護者
教育相談体制が整備されている。	86.5	58.8	・・・
(昨年度集計)	92.0	64.4	・・・
(増減)	-5.5	-5.6	・・・

*生徒は「気軽に、質問や相談できる先生はいますか」を反映

項目	教員	生徒	保護者
生徒指導において、家庭及び関係諸機関との緊密な連携がとれている。	67.3	・・・	・・・
(昨年度集計)	68.8	・・・	・・・
(増減)	-1.5	・・・	・・・

項目	教員	生徒	保護者
問題行動発生時の対応体制が整っている	61.5	・・・	・・・
(昨年度集計)	60.0	・・・	・・・
(増減)	+1.5	・・・	・・・

通信制の学習システムは、レポート（添削指導）とスクーリング（面接指導）からなっている。通信制の学習システムについて、勉強の仕方やレポートの書き方・提出方法などについて、生徒はほぼ理解しているが、保護者には丁寧な説明を行う必要がある。

自学自習が大前提となる通信制では、入学者の低年齢化（不登校等を理由に通信制を選択する者の増加）に伴い、自学自習という基本姿勢が希薄な生徒が増加している。その影響の一つとしてレポートの提出期限を守れないと感じる教員の割合が70%いる。この割合は、昨年度とほぼ同じであるが3年前と比較すると40.0ポイント増加している。提出期限を守れるように、効果的な指導法・連絡方法を引き続き検討する必要がある。

レポートに関する生徒の肯定的評価が「一人で取り組める内容となっているか」の項目は昨年度と比較して-1.6%、「添削が学習の理解を深めるのに役立っているか」では、+3.5%となっているが、ともに8割を超える生徒が満足している。スクーリングにおいても、「スクーリングは分かりやすく学習の助けになったか」「スクーリングに出席し満足感があるか」でも9割近くの生徒が満足感を得ている。これは、多様なニーズを持つ個々の生徒に対して、教員が個別指導を中心とした手厚いサポートを行なっているといえる。

教員評価において、「レポートは一人で完成できる内容となっているか」、「スクーリングの内容は、生徒のレポートの完成の手助けになっているか」で、若干の増減はあるものの、2回の公開スクーリング見学期間や各教科で実施した研究スクーリング、また添削レポートの公開により、自教科だけでなく他教科のレポート添削やスクーリングに触れる機会が増え、相互研鑽した結果が昨年に引き続き良い方向に向いていると考えられる。

生徒相談体制については、8割以上の教員が、「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。」と捉えている。しかし「気軽に、質問や相談できる先生はいる」と答えた生徒は58.8%となっており、昨年より5.6ポイント減少した。これは教員の意識と生徒の実態に開きがあることを示しており、引き続き、生徒が質問・相談しやすい職員室や面接指導室並びに相談室の環境整備、その他教員の意識改革が必要である。

生徒層の低年齢化、集団生活の希薄さから、学習面以外の様々な対応事案が増加している。スクーリング中の私語や携帯端末の操作など、これまではほとんど見られなかったような生徒の問題行動が昨年度から増えてきている。

家庭や関係機関との緊密な連携については、昨年度より1.5ポイント減少しているものの一昨年度より10%上昇しており更なる連携を進めていきたい。また昨年度から生徒指導体制を整え、問題行動発生時の速やかな体制を整えた。その結果「問題行動発生時の対応体制が整っている」は、1.5ポイント増加した。組織的な対応の強化が定着してきた表れと受け取れる。今後も生徒状況の的確な把握とともに問題事案に対してさらに組織的な対応ができるよう体制の強化に努めたい。

また昨年度から新設された特別支援委員会において、希望する生徒に面接を実施して個別の支援計画を作成した。その生徒の学習状況については、昨年度に引き続き好結果が得られた。このことから、個々の生徒に対応する生徒支援をより充実させていきたいと考えている。

今年度の学校教育自己診断では、生徒234名、保護者120名、教員52名から回答を得た。生徒からは、昨年度より14名少ない回答数となったが、逆に保護者からは、32名多く回答を得ることができた。1820名の活動生徒が在籍するので、生徒からの回答数を増加できる工夫が必要である。そのため実施方法等について更に検討、工夫し、回答率の向上を図りたい。

<委員>

部活動について

⇒生徒数が一番多い部活動は、文芸アニメ部。ラジオドラマを作成したり、文化祭に向けて活動している。サッカー部やバスケットボール部も活発になりつつある。

<委員>

託児室について

⇒日夜間部に所属している生徒で、1～5歳までの子供のいる生徒が利用している。スクーリング受講中、専門スタッフが子供をみている。

第2回 平成27年11月26日（木） 午後6時から午後8時まで

<委員>

個別の教育支援計画について、33名が登録していて16名について支援計画を作成しているが、残り17名について。

⇒登録した33名のうち、支援計画の元々の趣旨にはずれている生徒が17名であった。

<委員>

直接面談をした生徒以外は、個別の支援計画を立てていないのか。

⇒電話で対応している。個別の支援計画の必要性がある場合は、電話対応でも計画は立てている。

<委員>

支援計画の元々の趣旨にはずれていると判断した17名の生徒の中に、もしかしたら「学習障がい」があるなど支援を必要としている生徒もいるのではないかと。

⇒了解。別の場面で支援を検討している。

<委員>

外部機関との連携で進路について、就職支援コーディネーターの活動実績は？

⇒第1回の学校幹旋の就職希望者18名中、11名の内定を得た。月曜・金曜を中心に幅広い年齢層に対応した指導を行い、就職のバックアップを行っている。また、水曜日は就職活動に向けた「マナー講座」を実施している。

<委員>

生き残りをかけた学校経営が求められている中で、様々な工夫をされていることが理解できた。入学してくる生徒に対しても、多岐にわたる支援が必要であることがわかった。

<委員>

個別の対応に多くの時間を費やす必要があるということは、それだけ多くの教員が必要となるのか。

<委員>

通信制の課程で、毎回新しい取組みをされている。生き生きと報告されている姿から、それらの取組みが功を奏していると容易に想像できる。

<委員>

保護者の視点から、入学後の生徒の変化を知りたい。また、卒業後はどうか？（卒業後の経過の情報を評価してほしい）

<委員>

桃谷高校通信制の課程の生徒への取り組みが、生徒の着実な歩みに貢献していると感じる。

第3回 平成28年2月8日（月） 午後6時から午後8時まで

<委員>

高校生活支援カードを作成した生徒さんの、その後について聞かせてほしい。

⇒（第2回学校協議会の時に16名の生徒に作成したことを報告）作成した生徒16名のうち11名で大きな成果があがった。具体的な成果は、11名全員がすべての科目で、単位の習得または履修をすることができた。（本校の活動生全体でみると全科目で単位の修得又は履修というような生徒は、非常に少ないのが現状である。）このような画期的な成果が出た理由として考えられるのは、教務部と連携を密にすることにより、各範囲での調査時に対象の生徒に適切な配慮をすることができたためと思われる。

<委員>

支援カードの作成を見送った生徒の中にも、本来配慮する必要がある生徒がいるのではないかと。

⇒支援の対象外の生徒についても、高校生活支援カードそのものは作成していないが、精査したうえで適切な対応をさせていただいた。

府立桃谷高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する 教育システムの確立	(1) 生徒実態の把握 (2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化 (3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し	(1) 学校教育自己診断について ・実施時期の早期化。分析結果を次年度の経営計画に十分に反映させるため実施時期を10月に早めて実施する。 ・今後も、実施方法について、さらに検討工夫し回答率の向上を図る。 ・入学生が通信制の学習を円滑に進められるよう、入学時の基礎学力の把握（基礎学力診断テスト等）に取り組むとともに、レポート添削において生徒の学習状況を把握し学習支援の在り方について検討する。 (2) ・運営委員会を更に機能強化し、改革すべき諸課題について引き続き検討を進める。 ・運営委員会メンバーを核とした校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの活動内容の充実を図る。 (3) ア、イ ・募集人数の適正化及び機能強化について、引き続き校内議論を進め、府教育委員会と協議していく。 ウ ・スクーリング出席管理システムを導入する。（生徒が各教科・科目のスクーリング出席状況をリアルタイムで把握でき、学習の進行管理の助けとなり、また、担任は生徒の学習進行状況を常時把握できるシステムの構築）	(1) ア、イ ・自己診断の10月実施 ・自己診断の回答率向上 ・数・英での基礎学力診断テストの実施 実施率（中卒1年次での実施率100%） (2) 運営委員会の毎週開催 ・校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの取組内容とその件数 (3) ア、イ ・府教委との協議回数 ウ ・システムの導入とその検証	(1)ア、イ ・学校教育自己診断を11月に実施し234名（昨年度より14名減 H26年13.2%、H27年12.9%）から回答を得た。分析結果を教職員と情報共有し、次年度教育計画に生かしていく。（○） ・英語科において1年次科目の最初のスクーリングで実施。数学科においては、数学I入門受講者に限定して実施し、生徒の学習状況把握に取り組み、学習支援の在り方を検討した（実施率100%）。（◎） (2) ・運営委員会内の学校評価推進チームにおいては、学校教育自己診断、スクーリング評価、レポート評価（6月と11月）に話し合いを進め実施した（12回実施）。校務運営推進チームについては、今後年度末に向け各分掌総括等を受け活動中（7回実施）。（◎） (3)ア、イ ・来年度の自己申告書を活用しての入学者選抜方法の確認やH29年度選抜方針の面接方法、入学者の手引についての内容の確認事項を協議した（相談回数12回）。（○） ウ ・スクーリング出席管理システムは、今年度初めより完全実施している。各担任が迅速に生徒の出校状況や教科の出席回数を把握できるなど、多くの教員から好評を得た。しかし、利便性に流されず間違い等がないかチェックも必要である。今後生徒のニーズに応じたシステムの開発に努める。（◎）
2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上	(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成 ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開 (2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善 ア 一人で取り組める、満足感の得られるレポートの作成及び添削指導 イ レポート作成に役立つスクーリングの展開 ウ 研究・公開スクーリングの実施 (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入 ア 基礎学力不足の生徒に対する学習支援策の検討・確立 イ スクーリングに出席できない生徒のサポート体制 ウ 進学希望者に対する学習支援策の検討・確立 (4) 教職員研修の充実	(1) ア ・「確かな学力」を育成するため、基礎的内容を分かりやすく学習できるよう新たに開設した科目の検証 (2) ア、イ ・H26年度に実施したレポート添削及びスクーリング評価の結果、学校教育自己診断結果の分析を通し、レポート作成及びスクーリング内容及び指導法の改善を行う ・教科会議の充実と教科・科目の取組み目標を明確化 ・レポート及びテスト内容の点検、改善体制の検討 ウ 全スクーリングの公開化、教科内研究スクーリングの実施。 ・スクーリング見学月間の実施（年2回、6月、11月） ・教科内研究スクーリング後に研究協議を全教科で実施する。（6月、11月） (3) ア ・スクーリングのない日や時間、夏季休業期間等を利用した取組みの検討・実施（補充・補習・集中スクーリング等）。実施教科の拡大 ・面接指導エリアの整備・充実 ・学習相談コーナーの設置・充実 イ ・ICTを活用したe-ラーニングによる教育システムの試行 ・NHK高校講座の周知と活用の推進 ウ ・国・数・英の進学者対象講習の実施 (4) レポート作成・添削、スクーリングの指導力等向上に向けた校内研修の実施（6月）	(1) ア ・生徒の選択状況と単位修得状況 (2) ア、イ ・レポート添削評価70点以上、スクーリング評価3.5以上がそれぞれ全教員の8割以上 ・レポート添削評価満足度（1・2平均）各教科平均75以上 ・学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価が85%以上 ウ ・国・社・数・理・体・芸・英・外・家・情（商・工）での実施率（100%） ・見学感想票の提出率100% (3) ア ・講習会等への参加生徒数 ・自己診断「レポート提出期限を守らない生徒が多い」の教員意識の向上 イ 取組みの実施内容 ウ 講習会の開催と参加生徒数 (4) 校内研修の実施内容	(1)ア ・今年度の教育課程から、公民科の学校設定科目において、確かな学力育成のため「社会入門」を導入。科目内容の生徒の感想は「基礎知識の再確認になった」、「忘れていた知識を思い出せた」等肯定的な感想が多く見られた。生徒の反応は「全体的に社会の基礎を勉強し直した感じで、政治と経済は知りたいことがいっぱい勉強になりました」等好評を得た。（◎） (2)ア、イ ・6月に実施した1回目のレポート添削評価の結果は、12教科中10教科で70点以上の評価を得た（全教科平均72.93）。スクーリング評価については3.5以上の評価を得た教員は全体の62.7%となった。（△） ・レポート添削満足度については、12教科中4教科で75点以上の評価を得た（全教科平均69.26）。（△） ・学校教育自己診断における肯定的評価はレポート内容について89.9%（H26 91.5%）レポート添削について89.8%（H26 86.3%）スクーリングについて89.0%（H26 89.3%）となっており、昨年度とほぼ変化はなく高い結果で、すべて目標の85%に達した。（◎） ウ ・6月のスクーリング見学月間における見学者は50人（98%）11月51人（100%）であった。その感想をまとめ、教員にフィードバックした。また、すべての教科においてスクーリング後の研究協議を行い（実施率100%）、校内に定着して互いに研鑽する雰囲気が高まってきている。（◎） (3)ア、イ、ウ ・夏季休業中に、数学（11名）と英語（31名）において進学者講習を実施。その他の教科においてもレポート補習を実施、商業で各種資格取得試験を実施した。（○） ・NHK講座については、昨年に引き続き「総合学習」の時間に図書・総務部からその有用性と活用方法について生徒に周知・説明を行った。また、社会科の「日本史B」と「地理B」で3範囲にNHK講座の視聴報告をスクーリングの代替として実施し、日本史Bで8人、地理Bで6人の申請があった。この結果このスクーリング代替については生徒にとって、有効であることが分かった。（◎） (4) ・7月、1月に小グループで話し合いをする教員研修を実施。基礎学力が十分身に付いていない生徒への対応等について様々な意見がでて、次年度に生かすことのできる具体的な意見もあり、有意義な研修会となった。（参加人数7月50名、1月55名）（◎）

府立桃谷高等学校

<p>3 生徒支援と相談体制の強化・充実</p>	<p>(1) 生徒及び保護者との面談・懇談や相談会の実施</p> <p>(2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有</p> <p>(3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施</p> <p>(4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及び情報伝達環境の整備</p> <p>(5) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り</p>	<p>(1) 生徒及び保護者との面談・懇談を行い、支援を必要とする生徒を抽出、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携した組織的な支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中卒新入生の三者面談の実施。 ・生徒の居場所づくりの一環として、精神保健福祉士等を配置した「ほとりカフェ」を新設する。 <p>(2) 健康調査の結果、必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する。</p> <p>(3) 第1、第2範囲当初(5、10月)に研修会を開催、その他関連する勉強会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かしていく。</p> <p>(4) 生徒問題行動発生時の組織的対応の構築と強化</p> <p>(5) 本校生を多く担当している専門医・SCや保護者と生徒の心身面に重点を置いた連携を強化することで生徒支援を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室の環境整備と広報の充実 	<p>(1) 支援生徒数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援生徒の学習活動の進行状況 ・中卒新入生の三者面談・保護者面談実施率 ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」「気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を5%アップさせる。 <p>(2) (3) 研修・勉強会等実施内容</p> <p>(4) 生徒問題行動発生時の対応状況</p> <p>(5) 面談、相談回数 ケース会議の実施回数</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時の高校生活支援カードにおいて個別の教育支援計画の作成を希望した生徒33名に対し、聞き取りを行った。そのうち学校として必要があると判断した16名について本人・保護者との個別面談を行い個別の教育支援計画を作成した(100%)。その支援計画に沿って支援を行っている生徒の学習状況は16名中11名で学習に関して意欲的に取り組み十分な成果が上がった。(◎) ・昨年度から実施を推奨している中卒新入生の三者面談については実施率が31.4%(104名/331名)であった。(○) ・「安心して学校生活を送れている」の肯定率は81.7%(昨年81%)で、「気軽に相談できる先生がいる」の肯定率については、58.8%(64%)で肯定率については変化が少なかった。(△) <p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月と9月の教職員人権研修(参加人数5月55名、9月54名)において、特別配慮生徒について情報共有に努めるとともに、緊急対応についての理解を深めた。9月には、小グループに分かれて情報交換会を実施し、生徒個々への対応について情報交換し生徒対応に役立てる研修となった。(○) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒部を中心に、問題発生時には早急に組織対応ができた。(◎) <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ケース会議実施回数5回 相談室での相談回数43回 SCカウンセリング回数30回
<p>4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施</p> <p>(2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し、A´ワーク創造館と連携を行い、キャリア教育を行う。(社会に出たときに必要な人間関係形成能力を身につけるための講座を開設する。) ・教員向け進路指導説明会の実施 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者、就職希望者対象講習の実施 ・保護者向け進路説明会の開催 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア前教育として実施する講座の開設講座数及び講座への参加者数 ・校内研修の実施内容 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設講習数及び講習への参加者数 ・保護者向け進路説明会の開催と参加者数 ・就職希望者内定率 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に3回常駐している就職コーディネーターを活用し、個々の生徒の進路相談や面接指導を行った。 ・6月と7月に、コミュニケーションの苦手な生徒を対象とした「声劇体験」を実施(述べ18名参加)。 ・9月と10月「しごと応援講座」を実施。 ・12月にビズスマナ講座(就職予定者を対象)に実施。 ・1月15日看護系の進学説明会を実施。(周知期間が短かったため3名の参加にとどまったが、来年度は周知をしっかりとっておこなって6月に実施する予定) ・受講指導前の科目選択に参考になる内容で「進路だよりNo.5」(新設)を発送した。(◎) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向け進路説明会は、6月25日に実施(参加人数20名)。 ・保護者向け進路説明会を5月27日に実施(参加人数1名)。 ・就職希望の内定者19名中17名(内定率89.5%) (○)
<p>5 情報発信・広報活動の充実</p>	<p>(1) 情報発信の充実</p> <p>ア HP、携帯連絡メール(桃通メール)、桃谷通信の内容充実</p> <p>イ インフォメーションディスプレイの活用</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>ア 学校説明会の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPに全教科のページを設け、内容の充実を図る。 ・携帯連絡メール(桃通メール)を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションディスプレイの有効活用 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統一された内容の説明を行うため、説明会用スライド及び学校紹介用DVDの改善・充実。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科開設ページ100% ・HPへの年間アクセス数 ・携帯連絡メール(桃通メール)への登録件数と発信回数 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションディスプレイの更新頻度 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の解り易さ」肯定的評価8割 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、数学・家庭・社会・美術の教科において教科のページを開設し(開設率33%)、レポート作成時に役立つプリントをPDFで閲覧できる。また、学習会や講習会の案内も行った。(△) ・桃通メールには、平成27年度は642名の登録があった。平成27年度は、教務連絡や学校行事案内を中心に61回のメールを発信し、生徒・保護者への情報提供に努めた。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションディスプレイ掲載の情報管理の効率化(週1回以上更新)を図り、掲載漏れや誤情報等がないようにした。各種教務連絡や行事、講習会等の案内にも役立てることができた。(○) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に第1回学校説明会、11月に第2回学校説明会、1月に第3回学校説明会を実施した。4回目は2月7日に実施予定。第2回と第3回にアンケートを実施「解りやすさ」はいずれも84.4%、85.6%となっている。(○)